

第43回近畿ブロック大会 『ONE HYOGOがかわ大会』を開催

令和5年2月の役員会時に「令和7年にある近畿ブロック大会の主管地を加古川として受けようと思う」と当時の会長に言われたとき、事の大きさを理解していなかったあの頃の自分にピンタをしたと思っています。

単会メンバーのほとんどがブロック大会を開催することの大きさを知らない丸腰状態で開催まで2年半、執行部メンバーを中心に何度も会議を重ねながら、近畿圏内の7府県連全51単会をキャラバンで回ると決め、最終的に訪れたのは76箇所、中野大会会長は全力でやり切ってくれました。加古川でVivaなひとときを過ごしていただきたいという想いから大会テーマを「ビバットキ!!〜ココロおどるひとときを〜」と設定し、ZING¥ BANDのつくった『加古川のうた』を歌いながら各地へ赴きました。本当に大変でしたが各地で温かく迎えて入れていただき、YEGメンバーの絆を強く感じる時間となりました。

大会のメイン事業である記念式典は、手前味噌ですが本当に感動的な式典を執り行うことができたと思っております。そしてそのときに強く感じたのは、自分を含む一部のメンバーが多くの方々から拍手をいただいている最中、酷暑にも関わらず設営に走り回ってくれた仲間たちのおかげでこの時間があるのだということ。あのときの感謝の気持ちは特別沁みました。



全員で走り抜けました

そのあとの記念講演では、トリドルHDの栗田貴也氏と吉本興業の陣内智則氏による対談で参加者に有意義な時間を過ごしていただくことができました。大懇親会でも多くのパフォーマーに盛り上げてもらいながら、最後は涙のフイナーレを迎えることができ、本当に想いの詰まった大会を開催できたと思っております。関わっていただいた全ての方々に感謝の気持ちを込めて、ビバットキ!!

(大会実行委員長 杉浦 元記)

本質を見つめなおす ―加古川楽市を開催―

9月6日、7日の2日間、第22回加古川楽市を加古川市役所前広場にて開催しました。今年は「BACK TO BASICS」本質が動き出す」をテーマに、地元企業の魅力や地域の活力を再発見する場として、多くの来場者で賑わいました。



ご来場ありがとうございました

今回の楽市は、同日開催された「近畿ブロック大会」との連携により、例年以上に広域からの来場が見込まれました。加古川楽市の原点は、22年前に加古川で開催されたブロック大会の物産展に遡ります。地元の魅力発信しようと始まったこの催しは、今や季節を変えながら市民にとっての恒例行事として定着しています。

会場には、地元企業のブースや飲食コーナー、地域特産品の販売、体験型イベントなどが並び、訪れた人々は各ブースで交流を楽しみながら、加古川の多彩な産業と人の力に触れることができました。また、ステージイベントでは地元高校生や市民団体によるパフォーマンスも披露され、世代を超えて一体感に包まれました。

開催直前には台風が近づき、主催者は天候への対応に追われましたが、幸いにも大きな影響はなく、猛暑の中での開催となりました。それでも、出展者やスタッフの協力のもと、安全対策を徹底し、訪れた人々に笑顔でイベントを楽しんでいただきました。「原点に立ち返り、地域の本質を見つめ直す」。そんな思いが詰まった今回の楽市は、地域と企業市民が再びつながる貴重な機会となったと思います。22年の歴史を重ねてなお、加古川楽市は新たな未来へと歩みを進めていくことでしよう。



来年の開催もお楽しみに!

(楽市運営委員長 本岡 卓也)